

沖縄の有用植物資源 第1回 (ボタンボウフウ)

市場 俊雄
開発研究部 照屋 正映

近年、人々の自然療法への関心が高まり、伝統医薬品のルネッサンスともいわれ、天然物から医薬品・健康食品等の開発が盛んになってきています。伝統医薬品の多い中国・台湾に近く、また昔からこれらの国々と交易の盛んだった沖縄は、これらの国から多くの物を取り入れており、それらは熱帯・亜熱帯地域に生息する多種多様の生物群とともに天然医薬品資源・健康資源として注目されています。

そこで当センターでは、この無尽蔵とも思われる、海洋を含めた沖縄の生物資源を体系的に調査、整理し、県内の食品、化粧品等の産業界へこれら資源の情報を提供する目的で、平成10年度から沖縄の天然生物資源についてデータベース化してきました。いよいよ平成14年は、本データベースのインターネット上での県内産業界向けの公開を行うことになりました。そこで、その中から注目する資源を今回からシリーズでご紹介していきたいと思います。

まず第1回目は、ボタンボウフウについてご紹介します。この植物は平成13年度補正沖縄産学官共同研究推進事業などでその健康への効果が実証され、今後の商品化が期待される資源です。

ボタンボウフウ(セリ科)



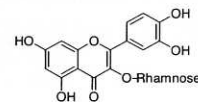
学名: *Peucedanum japonicum* Thunb.

中国、台湾、朝鮮半島、フィリピン、日本では関東以西に分布し、海岸近くの断崖や岩上に生えているセリ科の多年生草本です。方言では、「サクナ」や「チョウミーグサ」などと呼ばれており、与那国島では「長命草」の名で特産品として商品化され好評を博しています。

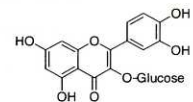
ボタンボウフウ(牡丹防風)の名は、葉の形状がボタンに似ていることから名づけられたそうです。

当センターでは、これまで文部科学省が実施する科学研究費補助金地域連携推進研究費事業、および沖縄県が実施する沖縄産学官共同研究推進事業において、フリーラジカル消去効果を有するポリフェノール類を分離しその効果を検証してきました。

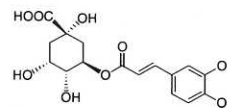
それらは以下に構造を示したフラボノイド類のクエルシトリン、イソクエルシトリンと、カフェ酸エステル類のイソクロロゲン酸A、イソクロロゲン酸C、クロロゲン酸、ネオクロロゲン酸です。これらポリフェノール類は、ビタミンCやビタミンEに匹敵する強いフリーラジカル消去効果を示しました。



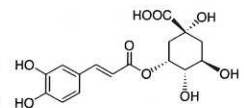
クエルシトリン



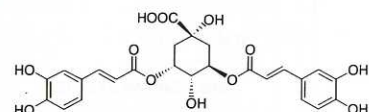
イソクエルシトリン



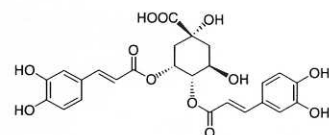
クロロゲン酸



ネオクロロゲン酸



イソクロロゲン酸 A



イソクロロゲン酸 C

参考文献

- ・世界有用植物事典 堀田満ほか編集、1996年発行 平凡社
- ・平成10年度地域コンソーシアム研究開発事業「有用生物資源の多目的利用のための加工製造システムの研究開発」成果報告書 P59-75
- ・平成11-13年度科学研究費補助金 地域連携推進研究費(2)「沖縄産天然抗酸化物質の健康保持薬としての開発に関する薬理・化学的研究」研究成果報告書 P47-55